

崩壊地の早期復旧を目指し！

東部振興局 農林基盤部
溝部 孝博

県では、熊本地震により発生した鶴見岳周辺の山腹崩壊地の早期緑化を図るため5月15日から16日にかけて、ヘリコプターによる航空実播工を0.62ha実施しました。

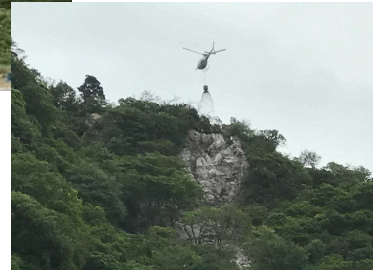
今回の航空実播工は、熊本地震復旧の『第1弾』として崩壊地の発生源対策を実施したもので、梅雨時期を控え降雨等による山腹崩壊地の拡大崩壊及び崩壊土砂の流出抑止のため種子を含む緑化基盤材を散布し、早期緑化を図るものです。

この畝原地区は、別府市鶴見地区春木川の上流に位置し、下流域には人家・病院・道路(県道及び市道)等多くの保全対象が含まれるほか、別府三大秘湯の『へびん湯』『鍋山の湯』『鶴の湯』もあることから、県民はもとより県外から多くの入湯者が利用しています。

また、溪流内に堆積している崩壊土砂の流出を防止するため、大分西部森林管理署と連携し治山施設を設置する計画としています。今後も県民の安心・安全のため取り組んでいきます。



上：資材の搭載状況



下：散布状況

国東に新たに参入した企業が栽培を開始

東部振興局 生産流通部
福本 律子

奥松農園くにさき(株)、九設ふる里めぐみファーム(株)の2社が国東市に参入しました。

奥松農園くにさき(株)は宮崎県から参入し、低段密植による高糖度トマトを周年栽培します。

すでに県内の企業が同様の栽培を行っており、奥松農園くにさき(株)は2社目になります。

また、農大生3名、国東高校生1名が従業員として採用され、地域雇用に貢献しています。現在は完成したハウスから順次栽培を開始しており、最終的に約2haで経営します。



奥松農園くにさき(株)作業様子

九設ふる里めぐみファーム(株)は、2作型によるオランダ品種ミニトマトの周年栽培を行います。夏秋栽培(50a)を開始し、8月下旬から促成栽培(50a)を植え付けし、最終的に約1haの経営を行います。

2社の参入により東部管内のトマト、ミニトマトの栽培面積は、飛躍的に拡大しました。

2社ともに、国東市のトマト、ミニトマト産地振興に寄与する地域に開かれた参入企業になれるよう支援していきます。



東部地区乾しいたけ品評会で意欲向上！

東部振興局 農山漁村振興部
横山 良子

東部地域の乾しいたけ生産者の生産技術や品質の向上を目的に4月26日に第11回となる「東部地区乾しいたけ品評会」を東部地区森林・林業活性化協議会の主催により開催しました。

今年度は、しいたけの発生時期に非常に乾燥し、低温傾向であったこと等、天候不順により作柄が心配されましたが、昨年を59点も上回る215点もの出品があり、改めて、乾しいたけ生産者の方々の生産意識やブランドの維持に対する意欲の高さを感じられました。

優等賞には、どんこの部 小川 健氏(別府市)、阿部 悦男氏(国東市)、こうこの部 山崎 一寛氏(国東市)が選ばれました。受賞者を代表し、小川健さんから、引き続き、品質の高い、消費者に好まれる乾しいたけの生産に努力しようと声掛けが行われ、参加者自らの意欲高揚が図られまし

た。

今回新たな取組として、より消費者目線にたった生産を推進するため、(株)阪急フーズの経営部長、安部正寛氏に「消費者に選ばれる乾しいたけ・これから売り手として望むこと」をテーマに講演をいただきました。講演後、質問が多くあり生産者の「売れる」もの作りの意識付けが大いに図られました。

生産技術は、所得向上に直結しますので、良品作りのため、引き続き品評会を開催していきます。 後継者：宗野祐二さん(1等賞)



ため池改修工事の現場見学会

日出水利耕地事務所
房前 慎一

4月28日にため池改修工事中の杵築市大字八坂にある山中大池において、地元からの要望により受益者17名を対象にした現場見学会を開催しました。

山中大池は、築堤から約100年が経過しており、古くから山中地区の農業用水として役割を担っているため池です。受益面積は、約27.4ha、貯水量は約128,000t、ため池が決壊した際の被害額は、約2億円と想定されています。平成28年9月よりため池改修工事を実施しており、ため池の規模は、堤長L



施工状況

=104.4m、堤高H=11.0mとなります。

現場見学会では、工事概要、進捗状況、今後の工程等について、現地の状況を見学しながら説明を行い、防災に対する認識と多面的機能について受益者の方々と情報共有することができました。また工事の完成に期待を寄せていることも感じました。

今後も受益者の意見と取り入れ、安全・安心で、地元で親しまれるため池とし、農業の一端を担えるよう施工に取り組みます。



現場見学会(4/28)